



マリゴールド 花言葉：健康・友情

四万十川ニュース

Vol.90

中村河川国道事務所 平成25年11月25日

入田ヤナギ林一斉清掃



毎年、春に開催されているイベント「菜の花まつり」に向けた入田ヤナギ林内の一斉清掃が11月7日(木)に行われました。当日は幡多農業高等学校、中村西中学校の生徒をはじめ、入田地区、四万十市観光振興連絡会議のメンバー、中村青年会議所、四国電力、国土交通省、高知県幡多土木事務所、四万十市など合わせて約300人が参加し清掃活動を行いました。参加者は木の上にかかった小枝を取り除いたり、地面に落ちている大量の枯れ草をクワなどを用いて集め、軽トラックに積む作業を2時間ほど行いました。清掃前、木の枝やゴミが散乱し、光が届かなかったヤナギ林内は見違えるほどきれいになり、会場全体に日が差すようになり、菜の花が育つ環境が整いました。

第40回四万十川自然観察会



ミサゴ

11月16日(土)、四万十川自然再生協議会とマイツルテンナンショウの会主催の「四万十川自然観察会」が開催されました。この日は快晴。絶好の観察会日和となり、一般参加者を含む約40名が入田河川敷に集まりました。参加者は、はじめに絶滅危惧種マイツルテンナンショウの保護育成のための草刈りを行い、心地よい汗を流しました。その後、植物の専門家である澤良木庄一先生から入田ヤナギ林の歴史と四万十川自然再生事業のあゆみについて教わり、実際にヤナギ林と河川敷を歩きながら秋の動植物を観察しました。貴重種であるマツカサススキに触れたり、悠然と空を舞うミサゴの姿を双眼鏡で追いかけていたり、入田の自然を満喫していました。

自然再生シンポジウムin四国

四万十川と愛媛県の重信川で川の自然再生事業が始まって今年で10年になります。そこで、これまでの成果を振り返り、今後の課題について語り合うシンポジウムが、11月5～6日に松山市で開催されました。四万十川からは、四万十川自然再生協議会の平石英正事務局長が四万十川自然再生事業の内容と市民の取り組みについて紹介しました。



シンポジウムの様子



パネルディスカッションの様子

また、同協議会の佐田博副会長と野生生物環境研究センターの澤田佳長所長がパネルディスカッションに出演し、事業実施によって菜の花が自生した入田ヤナギ林での取り組みを例に、自然再生事業が地域活性化にも結びついていることをPRしました。

四万十川に関するお気付きの点や、お問い合わせは中村河川国道事務所 計画課までお願いします。

TEL0880-34-7301

「四万十川ニュース」は、中村河川国道事務所HPにも掲載しています。

<http://www.skr.mlit.go.jp/nakamura/index.html>

